

令和 2 年度決算に係る
定期監査資料

令和 3 年 5 月

中小家畜試験場

1	前年度指摘事項等に対する措置等	1 頁
	(1) 指摘事項	
	(2) 監査意見	
2	前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項に対する処理状況	1 頁
3	職員の定員、現員調べ	1 頁
4	役付職員の調べ	1 頁
5	主な事業に関する調べ	2 頁～4 頁
6	収入証紙取扱調べ	5 頁
7	現金の取扱状況	5 頁
	(1) 現金取扱状況	
	(2) つり銭の状況	
8	財産に関する調べ	5 頁～6 頁
	(1) 公有財産	
	(2) 金券類の保有状況	
9	財産の貸付け及び使用許可調べ	7 頁
	(1) 土地及び建物	
	(2) 物品	
10	借受不動産明細調べ	7 頁
11	職員駐車場の管理状況調べ	7 頁
	(1) 管理状況	
	(2) 減免の考え方	
	(3) 使用料の見直し	
12	寄附物件の受納状況調べ	7 頁
13	備品の処分状況調べ	8 頁
14	現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ	8 頁
	(1) 亡失、損傷の報告状況	
	(2) 物品確認の実施状況	
15	事業別予算執行状況調べ	9 頁
16	農業機械の管理状況	10 頁
17	生産物（品）に関する調べ	11 頁
18	試験研究調査事業別実施状況調べ	12 頁～17 頁
○	意見、要望等	17 頁

1 前年度指摘事項等に対する措置等

(1) 指摘事項
該当なし

(2) 監査意見
該当なし

2 前年度県議会決算審査特別委員会の指摘事項（口頭指摘を含む。）に対する処理状況
該当なし

3 職員の定員、現員調べ

(令和3年3月1日現在)

種別 区分	事務職員		技術職員		現業職員		計		備考
	当該年度	2.4.1 現在	当該年度	2.4.1 現在	当該年度	2.4.1 現在	当該年度	2.4.1 現在	
定員	1	1	11	11	1	1	13	13	
現員	() 1	() 1	() 12	(1) 12	() 1	() 1	() 14	(1) 14	休職中1
過不足(Δ)			1	1			1	1	過員配置
臨時的 任用職員									
会計年度 任用職員	1	1	7	8	1	1	9	10	事務員1、現業技術員1、畜産技術員7

4 役付職員の調べ

(令和3年5月1日現在)

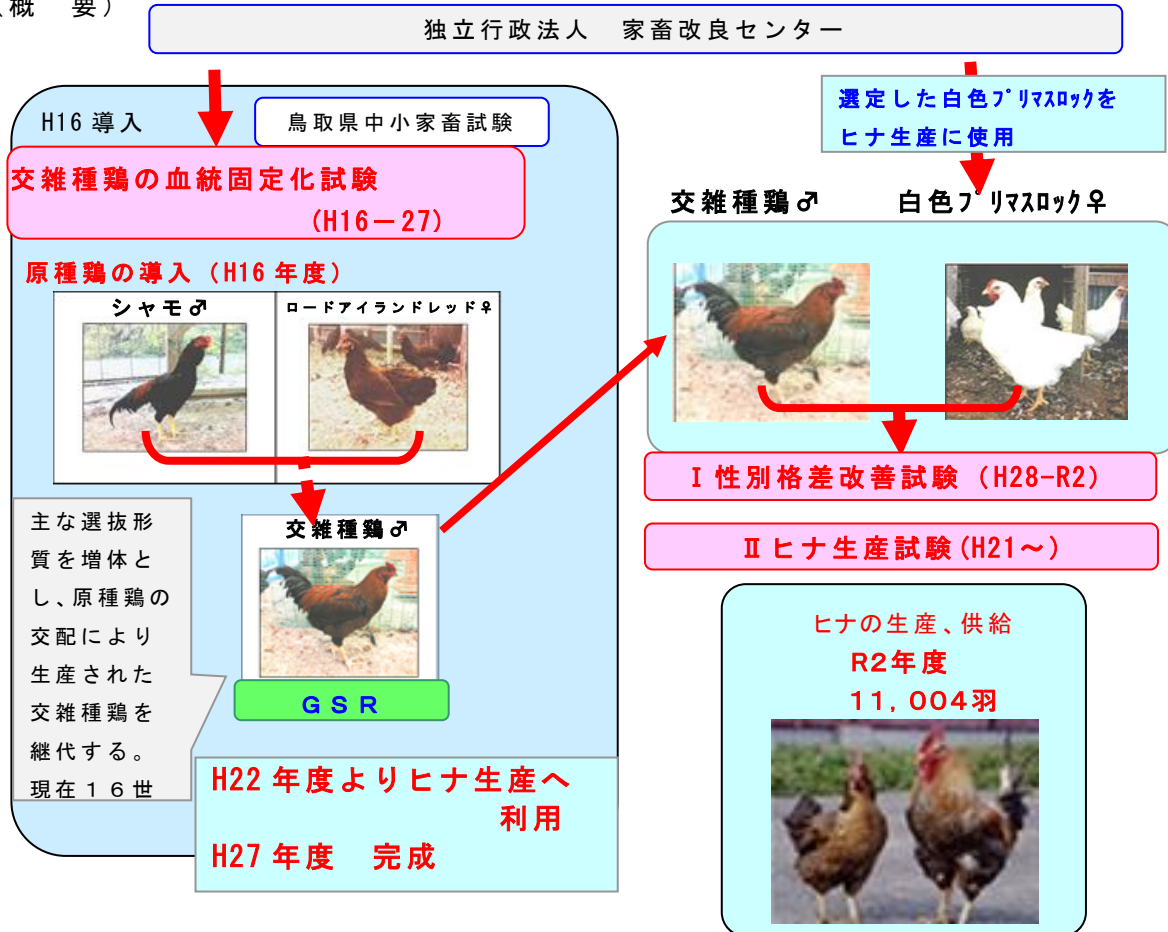
職名	氏名	在職期間		備考
		年	月	
場長	福田 孝彦	2	1	
課長補佐（総務担当）	勝部 純基	4	1	出納員
養豚研究室長	福間 規夫	0	1	
環境・養鶏研究室長	植松 亜紀子	2	1	

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
「鳥取地どりピヨ」の改良試験	7,014			1,286	5,728
将来ビジョン	市場に打って出る魅力あるオリジナル品種、高付加価値化技術の開発				
令和新時代創生戦略	I 【ひらく】地域で・県外で・国外で新時代に向かって扉をひらく				
政策項目					

(概要)



<試験全体の目的>

「鳥取地どりピヨ」の元となる種鶏は、全て県外導入に依存しており生産性や品質の安定性等に問題があり、これを改良すべく平成16年度から11年かけて鳥取県独自の地どり種鶏（GSR）を造成した。目標とする体重、バラツキの改善などは概ね達成したが雌鶏の体重に関しては雄鶏に比較して小さいという問題が残っていることから、平成28年度より性別体重格差の改善に取り組んでいるところである。

また、平成21年に民間の旧山陰食鶏農協の地どり生産休止に伴い、地どりのヒナ生産、出荷も休止されたため、当场がヒナ生産を行っている。

I 「鳥取地どりピヨ」の性別体重格差改善を目指した種鶏改良(H28-R2)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

「鳥取地どりピヨ」は流通業者や飲食店で雌が好ましいという声があり、生産者からは雌の出荷体重の増加に対する要望がある。そこで、ピヨの雌の増体量向上を目指した親鳥GSRの改良を行う。

(イ) 事業の実施状況

交雑種鶏群の維持を目指して16世代の作出、飼育管理を行った。ピヨの雌雄体重格差改善の反復試験を行った。

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

親鳥であるGSRの雌雄体重格差による区分ではなく、GSR雌の大きさで区分けを行い、ピヨを作製して雌雄体重格差試験を行った。

ウ 成果及び効果

交雑種鶏群第16世代を作出し、GSRの雌の体重別に家系の区分けを行い各区の雄と白色プリマスロック雌を掛け合わせピヨを作製したところ、父方種鶏の雌の大きい家系を掛け合わせた区のピヨは雌雄ともに大きくなった。

エ 課題

交雑種鶏群維持を目指し近交係数を考慮したうえで17世代の生産、飼育管理を行う。さらにピヨ雌の増体向上を目指すために、ヒナ生産においては雌の大きい家系のGSR雄を活用するとともに、ピヨの飼育管理方法の検討も必要と思われる。

また、ピヨの改良試験により開発当初の平成3年度のピヨの体重は97日齢時で、雄3,650g、雌2,650gであったものが、令和元年度雄4,854g、雌3,644gと、雌雄とも約1.3倍大きくなっており、現在のピヨの発育能力をふまえた出荷日齢の設定など飼育管理マニュアルの検討が必要と思われる。

II 「鳥取地どりピヨ」のヒナ生産試験(H21-)

ア 目的及び事業の実施状況

(ア) 目的

当試験場で「鳥取地どりピヨ」のヒナを生産し、農家へ供給することにより、安定的な農家経営を支援する。

(イ) 事業の実施状況

ヒナ出荷に向けて計画的に集卵、貯卵を4週間程度行い、定期的(月1回)にふ卵、孵化作業を行った。

イ 令和2年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点

防疫対策を徹底するとともに、人工授精を行い、ヒナの安定供給に取り組んだ。

ウ 成果及び効果

供給実績羽数は、年間目標羽数12,150羽に対し11,004羽(売却10,478羽、添雛526羽)であり、生産者の要望には応えることができた。

エ 課題

現在の試験場の生産能力(ハード、ソフト両面)には限界があり、今後ヒナ増産の必要性が生じた場合、体制見直しの検討が必要と思われる。

5 主な事業に関する調べ

(単位：千円)

事業名	決算額	財源内訳			
		国庫支出金	起債	その他	一般財源
ゲノム育種価を活用した「大山ルビー」の育種改良	17,480			7,574	9,906
将来ビジョン	市場に打って出る魅力あるオリジナル品種、高付加価値化技術の開発				
令和新時代創生戦略	I 【ひらく】地域で・県外で・国外で新時代に向かって扉をひらく				
政策項目					
<p>(概要)</p> <p>ア 目的及び事業の実施状況</p> <p>(ア) 目的</p> <p>本県では、デュロック (D) 種系統豚「大山赤ぶた」の雌にパークシャー (B) 種の雄を交配した「大山ルビー (DB)」を県独自ブランドとして商標登録している。「大山ルビー」は美味しい豚肉として流通業者および消費者から高い評価を得ている一方で、発育が遅く、背脂肪が厚いなどの生産上の課題があることから、これらを改善し更に品質を向上させるために、大山赤ぶたはゲノム育種価※を活用した育種改良及びパークシャー種は外部精液導入により新系統作出に取り組む。</p> <p>(イ) 事業の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲノム育種価を算出するために、大山赤ぶた 135 頭分の DNA サンプルを採取して 96 頭分の遺伝子検査を実施した。また 86 頭分の産肉情報を収集した。 パークシャー種精液を 3 か所 (岡山県 1、民間種豚場 1、米国 1) から 10 系統導入、種付けし、6 系統 7 頭が受胎した。令和 3 年 2 月に分娩し 49 頭 (雄 26 頭、雌 23 頭) の産子を得た。 <p>【用語説明】</p> <p>※ゲノム育種価：遺伝情報を利用して、個体の遺伝的能力を評価する技術</p> <p>イ 令和 2 年度の事業実施に当たり改善等に取り組んだ点 特になし</p> <p>ウ 成果及び効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ゲノム育種価を算出するために 5 年間で 650 頭分の DNA サンプル収集、遺伝子検査及び産肉情報が必要であり、令和 2 年度末時点での達成率は DNA サンプル収集：20.8%、遺伝子検査：14.8%、産肉情報：13.2%である。 外部導入精液で 3 つのパークシャー種新系統を作出するという目標に対して、十分な受胎数を確保できた。 <p>エ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナの影響により、共同研究機関である農業・食品産業技術総合研究機構との詳細な打ち合わせができなかった。また、ゲノム育種価算出の達成率がやや低いが、事業初年度であるため、体制整備に時間を要したことが原因であり、次年度から改善可能である。 得られたパークシャー種の産子の優秀な個体を育種素材として選抜するため、飼養管理の徹底を図る。 					

6 収入証紙取扱調べ
有 ・ 無

7 現金の取扱状況
(1) 現金取扱状況
該当なし

(2) つり銭の状況
該当なし

8 財産に関する調べ
(1) 公有財産
ア 土地

(令和3年1月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況						差引		備考
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登記 年月日	面積 (㎡)	価額 (円)	
行政財産			126,615.78	不明							126,615.78	不明	
	(内訳)				増加	R				R			
					減少	R				R			
計			126,615.78	0							126,615.78	0	
普通財産			62,251.82	15,010.286							62,251.82	15,010.286	
	(内訳)				増加	R				R			
					減少	R				R			
計			62,251.82	15,010.286							62,251.82	15,010.286	
			188,867.60	15,010.286							188,867.60	15,010.286	

イ 建物

(令和3年1月31日現在)

行政・普通財産の区分	機関名又は施設名等	所在地	前年度末		本年度異動状況						差引		備考
			面積 (㎡)	価額 (円)	増減別	異動日	面積 (㎡)	価額 (円)	増減理由	登記年月日	面積 (㎡)	価額 (円)	
行政財産	(内訳)		6,133.28	692,252,438							6,133.28	692,252,438	
					増加	R				R			
					減少	R				R			
計			6,133.28	692,252,438						6,133.28	692,252,438		
普通財産	(内訳)		2,729.99	156,006.898							2,729.99	156,006.898	
					増加	R				R			
					減少	R				R			
計			2,729.99	156,006.898						2,729.99	156,006.898		
			8,863.27	848,259.336						8,863.27	848,259.336		

ウ 山林

該当なし

エ 動産(船舶、浮標、浮棧橋、浮ドック、航空機)

該当なし

オ 物権

該当なし

カ 無体財産権(特許権、著作権、商標権、実用新案権等)

該当なし

キ 有価証券

該当なし

(2) 金券類の保有状況

ア 金券の保有状況

有 ・ 無

イ タクシーチケットの保有状況

該当なし

9 財産の貸付け及び使用許可調べ

(1) 土地及び建物

ア 土地
該当なし

イ 建物
該当なし

(2) 物品

該当なし

10 借受不動産明細調べ

該当なし

11 職員駐車場の管理状況調べ

(1) 管理状況

(令和3年1月31日現在)

財産の区分	所在地	1区画の面積 (㎡)	貸付(使用)料(月額) (円)
行政財産	中小家畜試験場(西伯郡南部町北方633)	12.5	1,000
普通財産	該当なし		

(2) 減免の考え方(減免を行った場合のみ)

通勤手段として通勤先官公署への公共交通機関が確保できない場合に該当するため、公有財産事務取扱要領第5章第1節第11使用料の減免4表の4を適用(減免率10/10)

中小家畜試験場は、最寄りの米子駅までの距離が約8.8kmかつ最寄りの上阿賀バス停までの距離が約1.7kmあり勤務先の所在地に通勤手段となり得る公共交通機関がない場合等、通勤困難な事務所である。

(3) 使用料の見直し

平成31年1月16日実施

12 寄附物件の受納状況調べ

該当なし

13 備品の処分状況調べ

(令和3年1月31日現在)

品名 (規格・銘柄)	(保管換年月日) 取得年月日	不用決定 年月日	処 分					備 考
			売払 棄却 の別	売払方 法・棄却 理由	処 分 年月日	売払額	処分費用	
トットリ デー 6 6065	H28.12.6	R2.4.22	売払	委託販売	R2.4.23	円 32,114	円 0	
トットリ デー 8 8064 他2	R2.5.13	R2.6.3	売払	委託販売	R2.6.11	81,546	0	
トットリ デー 10 8105 他3	R2.3.12	R2.7.7	売払	委託販売	R2.7.9 他	116,117	0	
トットリ デー 9 8136	R2.5.13	R2.8.3	棄却	亡失	R2.8.4	-	-	
トットリ ビー 7 7108	H30.11.30	R2.8.6	売払	委託販売	R2.8.20	14,055	0	
トットリ デー 8 6246	H29.11.16	R2.8.19	売払	委託販売	R2.8.20	33,748	0	
トットリ デー 6 5130	H28.4.22	R2.8.20	棄却	亡失	R2.8.21	-	-	
トットリ ビー 4 6019	H28.12.6	R2.8.28	売払	委託販売	R2.9.3	16,689	0	
トットリ デー 8 6145 他1	H29.6.29 他	R2.9.2	売払	委託販売	R2.9.10	69,049	0	
トットリ デー 10 6016	H28.11.9	R2.9.10	棄却	亡失	R2.10.9	-	-	
トットリ 484 2 9082	R2.9.1	R2.9.16	棄却	亡失	R2.9.24	-	-	
トットリ ビー 7 7084	H30.7.3	R2.10.12	棄却	亡失	R2.10.23	-	-	
トットリ ビー 1 3056 他1	H26.7.3 他	R2.10.12	売払	委託販売	R2.10.15	37,706	0	
トットリ デー 6179	H29.6.29	R2.10.20	売払	委託販売	R2.10.20	12,636	0	
トットリ デー 6187 他1	H29.9.5 他	R2.11.16	売払	委託販売	R2.11.19	62,492	0	
トットリ ビー 8 7096 他1	H30.11.30	R2.11.30	売払	委託販売	R2.12.3	61,376	0	
トットリ デー 10 9001	R2.9.1	R2.12.25	棄却	亡失	R3.1.21	-	-	
トットリ デー 8 7266 他4	H30.11.30 他	R3.1.19	売払	委託販売	R3.1.21	151,222	0	
合 計						688,750	0	

14 現金、有価証券、物品の亡失、損傷調べ

(1) 亡失、損傷の報告状況

有 ・ 無

(2) 物品確認の実施状況

有 ・ 無

15 事業別予算執行状況調べ

目 名	畜産総務費	(令和3年1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
畜産農家環境保全指導事業	(目的) 県内畜産農家の水質調査 (実績) 調査件数: 水質 14件	

目 名	中小家畜試験場費	(令和3年1月31日現在)
事業名	事業の概要(目的、実績等)	
コンパクトで低コストな脱臭装置の開発	18 試験研究調査事業別実施状況調べに記載	
畜産排水の窒素低減処理技術の開発	18 試験研究調査事業別実施状況調べに記載	
「鳥取地どりピヨ」の改良試験	5 主な事業に関する調べに記載 18 試験研究調査事業別実施状況調べに記載	
「鳥取地どりピヨ」の遺伝資源保存技術の確立	18 試験研究調査事業別実施状況調べに記載	
大山ルビーの新たな旨み成分に関する研究	18 試験研究調査事業別実施状況調べに記載	
ゲノム育種価を活用した大山ルビーの育種改良	5 主な事業に関する調べに記載 18 試験研究調査事業別実施状況調べに記載	

16 農業機械の管理状況

(令和3年1月31日現在)

品名	型式及び規格	取得年月日	用途	稼働日数 日	修繕費等 円	左の主な 内容 円	備考
トラクター	クボタ L1-R18	S57. 6.17	除雪、堆肥 等運搬	15	0	0	
	クボタ KL43BMAP	H15. 9.12	除草、除雪、 堆肥等運搬	94	17,545	点検整備一式 17,545	
小型ローダ	小松フォークリ フト(株)SK05	H5. 10.29	堆肥の運搬	23	2,500	小型ローダバンク修理 2,500	
ホイールロー ダー	クボタ R430Z	H21. 7.17	堆肥の運搬	158	61,897	特定自主検査一式 41,745 バッテリー購入 15,092 ワイパーブレード 5,060	
動力運搬車	カワシマRA4WD - D(ST)	H16. 12.20	豚糞の運搬	75	0	0	
	(有)河島農具製 作所 RX4WD	H24. 9.13	豚糞の運搬	136	5,830	点検整備一式 5,830	
	(有)河島農具製 作所 RX4WD	H26. 9.24	機材等の運 搬	75	0	0	
	(有)河島農具製 作所 AC190SD-4WDVステ ンレス荷台仕様	R2. 7.27	豚糞の運搬	80	0	0	
自走式草刈 機	オーレッククロ ーラハンマーナ イフローター H RC802B	H23. 6.29	除草	24	67,804	草刈り機用ナイフ・ボル ト購入 33,902 草刈り機用ナイフ・ボル ト購入 33,902	
バッテリー 式運搬車	藤樹運搬機工 (株) EY8-37G	H22 7.30	飼料の運搬	237	0	0	
斜面草刈り 機	(株)オートレッ ク スパイダー モアー SP852AF	R2 6.29	除草	15	0		
	(株)オートレッ ク スパイダー モアー SP852AF	R2 6.29	除草	5	0		
計					155,576	155,576	

17 生産物（品）に関する調べ

(令和3年1月31日現在)

生産 部門	品名 種類	作付 面積	生産 計画 数量	生産数量			場内 使用	処分数量						分類 換	差引 残	備考	
				前年度か らの繰越	生産 購入	計		売却		目的外使用		廃棄	計				
								数量	金額	数量	金額		数量				金額
養 鶏	成 鶏			羽 517	羽 744 分類換 660 購入他 84	羽 1,261	羽 0	羽 0	円 0	羽 0	円 0	羽 628 へい死 51 淘汰 577	羽 628	円 0	羽 0	羽 633	分類換は 育成鶏か ら
	育成鶏			羽 389	羽 16,353 生産 16,142 購入他 211	羽 16,742	羽 138	羽 8,655 へ 8,608 GSR 5 肉用鶏 42	円 1,071,035	羽 0	円 0	羽 7,289 へい死 18 淘汰 7,271	羽 15,944	円 1,071,035	羽 660	羽 0	分類換は 成鶏へ
	種卵			個 5,297	個 31,513	個 36,810	個 16,142	個 0	個 0	円 0	個 0	個 15,200	個 15,200	円 0	個 0	個 5,468	
小計	—	—	—	—	—	—	—	円 1,071,035	—	—	—	—	円 1,071,035	—	—	—	—
養 豚	精 液		本 3,200	本 164	本 4,674	本 4,838	本 214	本 815	円 896,500	本 18	円 0	本 3,673	本 4,506	円 896,500	本 0	本 118	
	生産品		頭 882	頭 127	頭 653	頭 780	頭 0	頭 545	円 6,423,632	頭 7	円 0	頭 へい死等 54	頭 606	円 6,423,632	頭 55	頭 119	分類換は 動物へ
小計	—	—	—	—	—	—	—	円 7,320,132	—	—	—	—	円 7,320,132	—	—	—	—
合計	—	—	—	—	—	—	—	円 8,391,167	—	—	—	—	円 8,391,167	—	—	—	—

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

(令和3年1月31日現在)

事業名	コンパクトで低コストな脱臭装置の開発		担当室別	環境・養鶏研究室
実施計画期間	平成28年度 ～ 令和3年度		(予算額) 支出済額	(2,377,000円) 2,103,223円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) ガラス発泡材脱臭装置と他の脱臭法を組み合わせて農家施工も可能となるような、コンパクトで低コストな装置を開発する。	中小家畜試験場		(1) 堆肥化施設における脱臭試験 (2) クエン酸廃液の処理方法の検討(液肥利用確認試験)	(成果) (1) 前年度までの実験室での試験により、ガラス発泡材脱臭装置と組み合わせる脱臭法として、クエン酸を用いた酸洗浄法が有効であることがわかった。 今年度は当場の鶏糞堆肥化施設にクエン酸洗浄法による脱臭装置(脱臭槽1m ³ 、送気量2m ³ /分)を製作・設置し、脱臭効果を確認したところ、試験期間中(約6ヶ月間)のアンモニア平均除去率は93%と高い脱臭効果が得られた。 (2) クエン酸洗浄法による脱臭装置から排出される廃液の有効利用を検討するため、廃液を液肥として施用したコマツナの栽培試験を行った。コマツナの生育は、市販液肥よりやや劣ったが、生育障害等は見られず、液肥として利用することが可能であると考えられた(市販液肥区を100とした場合の廃液区の1株当たり重量は97.3)。 (課題) ・ 運転コスト(クエン酸費用)を抑えるための対策検討 ・ 液肥施用に適した作物の検討及び液肥として販売するに当たっての問題点の整理。

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

(令和3年1月31日現在)

事業名	畜産排水の窒素低減処理技術の開発		担当室別	環境・養鶏研究室	
実施計画期間	平成30年度 ～ 令和2年度		(予算額) 支出済額	(629,000円) 432,901円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題	
(単) 畜産経営排水の処理適正化や硝酸性窒素等の暫定基準値引き下げに対応した技術の検討及び現地実証試験を実施して、地域と調和した収益性の高い畜産経営の施設整備、増頭などの生産基盤強化に向けた支援のための技術確立を行う。	中小家畜試験場		<p>(1) 天然ゼオライト窒素吸着持続性能試験</p> <p>(2) 天然ゼオライトの再生処理調査試験</p> <p>(3) 天然ゼオライトの現地実証試験</p>	<p>(成果)</p> <p>(1) 当場の汚水処理施設から出る処理水を使って天然ゼオライトのアンモニア性窒素吸着持続試験を実施した。その結果、試験開始後24日まではアンモニア性窒素を50%以上除去し、その後除去率は低下していったものの79日時点でも20%の除去率を維持した。さらにアンモニア性窒素が吸着飽和した天然ゼオライトを塩化ナトリウム溶液で再生処理し、再度アンモニア性窒素が吸着できる状態にして同様の試験を実施したところ、試験開始後12日目でアンモニア性窒素の除去率が50%を下回った。</p> <p>このことから、再生処理した天然ゼオライトのアンモニア性窒素除去能力は半分程度になることが示唆された。</p> <p>(2) アンモニア性窒素吸着飽和した天然ゼオライトに対し、同量の10%塩化ナトリウム溶液で再生できたが再々生はできなかった。また、水酸化ナトリウムと炭酸ナトリウムによる再々生能力について調査した結果、同量の5%水酸化ナトリウム溶液で最も高い再々生能力を示した。</p> <p>(3) 県内養豚農家の汚水処理施設から出る処理水を天然ゼオライトで硝酸性窒素等の除去を試みた。処理日数10日目で除去率50%であったが、処理日数80日を超えると除去率は0%となった。除去率の低下はSS濃度に影響される可能性が示唆された。</p> <p>(課題)</p> <p>効果的なゼオライトの再生方法について引き続き研究が必要。</p>	

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

(令和3年1月31日現在)

事業名	「鳥取地どりピヨ」の改良試験		担当室別	環境・養鶏研究室
実施計画期間	—		(予算額) 支出済額	(7,046,000円) 4,528,191円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) I「鳥取地どりピヨ」の性別体重格差改善を目指した種鶏改良 (平成28-令和2) ピヨの雌の増体量向上を目指した親鶏であるGSRの改良を行う。	中小家畜試験場	16世代鶏 310羽	雌の大きい家系のGSRの雄を用いてピヨを作成する。	(成果) 5 主な事業に関する調べに記載
				(課題) 5 主な事業に関する調べに記載
II「鳥取地どりピヨ」のヒナ生産試験 (平成21-)	中小家畜試験場	種鶏(母鶏) ・H31.4導入 200羽 ・R2.4導入 200羽 等	ヒナ供給目標: 年間 12,150羽	(成果) 5 主な事業に関する調べに記載
				(課題) 5 主な事業に関する調べに記載

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

(令和3年1月31日現在)

事業名	鳥取地どりピヨの遺伝資源保存技術の確立		担当室別	環境・養鶏研究室
実施計画期間	平成29年度 ～令和3年度		(予算額) 支出済額	(601,000円) 237,528円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 伝染病発生等の危機管理対策として、地どり精液凍結保存技術の開発を行い、地どり遺伝資源保存技術の確立を目指す。	中小家畜試験場	交雑種鶏(GSR) ♂100羽	(1) 供試する種鶏の精液品質を向上させるため、各種ビタミン剤等を飼料添加し比較検討を行う。 (2) 鳥インフルエンザ発生等有事の際に地どりを復活させるために凍結精液を作製・貯蔵する。	(成果) 昨年度と異なる市販ビタミン等含有混合飼料を飼料添加すると、精子濃度および精液の活性は添加しない場合に比べて高くなる傾向が見られたが、市販添加飼料間の差は明確にはなかった。 (課題) 混合飼料の種類と投与方法について再度検討し、精液品質の向上を図る必要がある。

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

(令和3年1月31日現在)

事業名	大山ルビーの新たな旨み成分に関する研究		担当室別	養豚研究室
実施計画期間	令和2年度 ～令和4年度		(予算額) 支出済額	(6,539,000円) 3,643,470円
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標	試験研究調査の成果・課題
(単) 1. ブランド豚「大山ルビー」の新たな旨み成分を特定し、他ブランド豚肉との違いを明確にする。	中小家畜試験場	大山ルビー豚肉 72検体 (6農場 ×6検体 ×2年間)	大山ルビー豚肉サンプルを収集し、次の理化学分析を実施する。 ・一般成分 水分、タンパク質含量、脂肪含量、肉色、ドリップロス、加熱損失等 ・遊離アミノ酸 アルギニン、オルニチン、グリシン等30項目 ・核酸関連物質 イニシン酸、アデニル酸等4項目 ・単糖類 グルコース等3項目 ・脂肪酸 オレイン酸、パルミチン酸等9項目	(成果) 卸売業者等と調整を行い、大山ルビー豚肉30検体を収集し、理化学分析を実施した。 (課題) 今年度(事業初年度)は、検査機器の調整や検査体制整備に時間を要した。脂肪酸分析は従来は外部検査委託していたが、分析機器を導入し、自前検査できる体制を整備した。

18 試験研究調査事業別実施状況調べ

(令和3年1月31日現在)

事業名	ゲノム育種価を活用した「大山ルビー」の育種改良		担当室別	養豚研究室	
実施計画期間	令和2年度 ～令和6年度		(予算額) 支出済額	(17,707,000円) 12,500,526円	
試験研究調査の目的	試験研究調査を行う場所	試験研究調査の対象・数量・範囲	本年度の試験研究調査等の目標		試験研究調査の成果・課題
(単) 1. ブランド豚「大山ルビー」の母系であるデュロック種「大山赤ぶた」のゲノム育種価を算出し、育種改良に活用する。	中小家畜試験場	大山赤ぶた肥育豚約130頭	ゲノム育種価を算出するために、大山赤ぶたの耳片から年間130頭分のDNAサンプルを採取し、遺伝子検査を実施する。同時に同一個体の産肉情報(発育、ロース芯面積、背脂肪厚、筋肉内脂肪含量、オレイン酸含量等)を収集する。		6 主な事業に関する調べに記載
2. ブランド豚「大山ルビー」の父系であるパークシャー種の外部精液導入により優良新系統を作出する。	中小家畜試験場	パークシャー種母豚10頭とその産子	優秀なパークシャー種新系統を作出するために、外部機関から精液を導入し、場内パークシャー種雌10頭に種付けを行い、産子を得る。産子の発育等を調査し、高能力豚を選抜する。		6 主な事業に関する調べに記載

○ 意見、要望等

(1) 業務に関する意見・要望等

該当なし

(2) 監査委員事務局に対する要望等

該当なし